

～管内巡回訪問が終了しました～

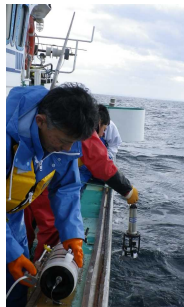
管内の市町・漁協・水産加工協を訪問し、水試の研究成果をお知らせすると共に、今後の試験研究要望を伺うための「巡回訪問」がこのほど終了しました。お忙しいところ対応して頂いた皆様には、ご協力を心から感謝申し上げます。幅広い要望を頂き、当日の打合せだけでは整理しきれない内容もあり、今後更に打合せを重ねながら対応を検討して参る所存です。

今回の訪問で、我が国有数の豊かで安定したオホーツクの浜にも様々な課題があることを改めて実感しました。豊かさの源であるホタテガイ漁業にしても、その出発点である採苗は毎年の海況頼みで不安定ですし、貝の小型化、ヒトデの増加、漁具の改良など、試験研究機関が役割を果たすべき課題が山積しています。

今回伺った課題の多くは、網走水試だけでは対応が難しいものでした。他の研究機関と連携・協力して、浜の要望に応えられるよう「出口」をしっかりと意識しながら研究を組み立てていかなければならないと考えています。

また、要望の緊急性や重要性を考え、できるだけスピード感を持って対応していこうと考えています。今年の春先にホタテの歩留り低下、採苗不良、稚貝の活力低下などが見られた地区から、その原因究明について要望が寄せられましたので、関係地区の稚貝生産者の皆さんが集まる機会に、この春の海の状況等についてこれまでのデータを基に説明させて頂きたいと考えています。昨年度からクロフィルの連続観測装置を雄武、紋別及び常呂の海域に設置しており、興味深いデータが得られ始めています。（「試験研究は今」第 713 号参照。 <http://www.fishexp.hro.or.jp/shikenima/701TO750/index.htm>）

また、すでに関係機関にはご案内していますが、年明けの 1 月 17 日(木)に、網走漁協に会場をお借りして「拡大ホタテガイ担当者会議」を開催します。水試が現在行っているホタテガイ漁場の可視化の取組などについて、北大及び熊本大の先生に講演して頂くこととしており、出席の皆様からも大いに質問や意見を頂きながら取組を進めていきたいと考えております、皆様のご参加をお待ちしています。（T）



浜の協力で行われる
海洋観測